

科目名：看護管理	配当年次3年	開講時期 3年前期
単位・時間：1単位（15時間）	授業の方法：講義	
担当者：三原・長田・金子・鈴木・池田 看護管理者・薬剤師・管理栄養士、社会福祉士等チーム医療を実践する構成員がその経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。         実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>		
授業概要	<b>【講義内容】</b> 看護を効果的・効率的に提供するために看護管理の理論や技術について、組織論や管理過程と共に、チーム医療に必要なリーダーシップ理論、意思決定、調整とマネジメントについてチーム医療の観点から教授する。 ここでは、臨床での実践者、他職種など様々な方を導入し現状と他職種への理解（尊重）とともに、「看護師とは」について自己の看護師像をさらに構築する動機付けとなることをねらいとする。 <b>【目標】</b> 1. 看護管理の定義、基本要素、看護におけるマネジメントの考え方を理解する。 2. リーダーシップと意思決定支援の方法について理解する。 3. 他職種の役割と範囲を理解（尊重）し、協働連携の在り方を考える。 4. 自己の看護職としてのキャリアデザインを再考する。	
授業の計画	1 保健医療システムから見えてくること：保健医療提供システム／保健／医療の提供とチーム活動／保健医療チームと看護／医療提供体制の改革 2. 3. 4 専門職集団の中で、協働するために必要な看護師の知識・技術・態度・他職種の役割と協働 NSTの一員として（管理栄養士）／MSW／薬剤師 等 5 看護管理とシステム・組織とマネジメント・病院管理の実際 6. 7 リーダーシップ理論・対人援助とリーダーシップ 対人関係の在り方トレーニング（演習）・キャリアデザインの再考 8 試験	
成績評価の方法・基準	筆記試験50% 課題レポート50%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院 eテキスト <b>【参考文献】</b> 細田満和子：チーム医療とは何か、日本看護協会出版会 チーム医療論 医歯薬出版 その他講義内で紹介する	
履修上の注意事項	臨床での実践者、他職種など様々な方によって講義が展開される。そのため、休むことのないように留意されたい。	

科目名：看護・医療安全教育	配当年次3年	開講時期 3年前期・後期
単位・時間：1単位（30時間）	授業の方法：講義	
担当者：那須 幸子・野部 雅子 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 感染管理認定看護師と看護管理者としての実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 医療事故発生の要因と増加の背景について、人間の認知や人間工学的視点から考えることができる。さらにその予防策として実習中のヒヤリ・ハットや過去の事故事例を活用し具体的に考え理解を深める。この講義では、近い将来専門職として医療現場に勤務する学生が、安全に医療を提供する立場の重要性を認識し、看護業務に自覚や責任を持つことができることを期待する。 <b>【目標】</b> 1. 医療事故要因と増加の背景について理解する。 2. 医療事故予防策について理解する。 3. 感染管理の実際を理解する。	
授業の計画	1. 2 } 医療事故の要因と医療の質の向上／自己モニタリングとメタ認知／コミュニケーションエラー 3. 4 } 患者の安全を守るための感染管理の実際 5. 6 } 医療施設における有効な感染対策／感染防止対策に有効な看護技術 7. 8 } 看護場面における危険予知 9 } 専門職と法的責任 10 } 看護業務の特性と医療事故 11. 12 } 過去の事故とヒヤリハット事例検討を下記の視点でグループワーク 13. 14 } 看護者要因の理解と対策／看護業務の特性／自己モニタリングとメタ認知 専門職の法的責任／過失及び因果関係／医療事故防止策 15 } 筆記試験及び解説	
成績評価の方法・基準	筆記試験90% グループワークによる取り組みとレポート10%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院 eテキスト <b>【参考文献】</b> 川村治子：医療安全ワークブック、医学書院 加藤済仁編：看護師の注意義務と責任、新日本法規 長野展久：看護事故の裏舞台—22 事例から徹底的に学ぼう、医学書院	
履修上の注意事項	3～6は感染管理認定看護師が担当	

科目名：災害看護	配当年次3年	開講時期 3年前期
単位・時間：1単位（30時間）	授業の方法：講義	
担当者：木島・山崎・村山他		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>
日本赤十字病院からの看護師および市町村の防災担当、消防署の救急救命士等が実践を生かした講義を行う。		
授業概要	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>災害看護とは、災害に関する看護独自の知識や技術を体系的かつ柔軟に用いると共に他の専門分野と協力して災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくするための活動を展開する事である。国際的な医療看護の視点で現状を概観し国際協力のしくみと、災害発災から災害サイクル各期の看護を理解する。又地域社会における災害実践活動へ参加や、演習を通し、自分が置かれている地域社会（看護学校を含む）の防災システムの理解を深める。災害発生時又は災害に備えて、看護者として行動できるための知識技術態度を身につけることをねらいとする。災害はいつ、何処で起こるかわからない、災害看護の授業を通し、何処で災害が発生しても、看護学生として自分の安全を確保し、指示に従って災害救助活動に参加する姿勢を身につけてほしい。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際医療・看護における国際交流と協力について理解する。</li> <li>2. 災害および災害看護に関する基礎的知識、技術、態度を理解する。</li> <li>3. 災害および災害看護に関心を持ち、在学中および卒業後の自己の役割を認識する。</li> </ol>	
授業の計画	<p>1 災害、災害看護の概念が述べられる</p> <p>2 地域社会の防災システムを知る・防災訓練の位置づけがわかる 当地域にける災害ボランティアの実際と活動方法がわかる</p> <p>3. 4 防災訓練に看護学生として参加できる</p> <p>5. 6 救命処置についてわかる</p> <p>7. 8 災害サイクルに沿った看護がわかる</p> <p>9 看護における国際化の状況がわかる</p> <p>10 国際協力の仕組みが分かる</p> <p>11. 12. 13. 14 災害サイクルに沿った看護がわかる（トリアージ・初期対応演習）</p> <p>15 筆記試験及び解説</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験80% 課題レポート10% 市民防災訓練・上級救命講への参加（出席）10%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>災害看護 南山堂</p> <p>災害看護学 メヂカルフレンド社</p>	
履修上の注意事項	学外での授業もあるため、事前オリエンテーションをよく聞いて行動してください。また、休むことのないように留意されたい。	

科目名：看護研究 I	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間：1単位（15時間）	授業の方法：講義	
担当者：三原 千か代	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>看護の質向上、科学的根拠に基づく看護を目指すために「看護研究」の必要性が看護の役割の中に位置づけられている。普段から問題意識を持つ必要性を理解し看護研究についての基礎的知識を学習する。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の特徴が理解できる。</li> <li>2. 研究における倫理的配慮と重要性がわかる。</li> <li>3. 研究の進め方と研究計画書の役割が理解できる。</li> <li>4. 文献検索を通し研究目的と研究方法について理解できる。</li> <li>5. 研究発表の流れが概観できる。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究・事例研究の目的 研究的態度として求められる能力と基本的倫理原則</li> <li>2. 3. 研究の種類 論文の全体構成 研究のプロセスと進め方 研究計画書の意義 データー収集や分析方法</li> <li>4. 看護研究のクリティーク、講評の視点、文献検索の方法</li> <li>5. 批判的思考・論理性を踏まえたクリティークの実際</li> <li>6. 7. クリティークの視点を踏まえ、参加者として臨む姿勢を意識し埼玉県看護学生研究発表会へ参加（レポート課題）</li> <li>8. 基本的知識の確認</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 60% レポート 40%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統的看護学講座 看護研究 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>高橋百合子：看護学生のためのケース・スタディ 第4版、メヂカルフレンド社、2015</p> <p>木村宏子：わかりやすい看護研究の進め方、看護学生版 シリーズ7、照林社、2003</p> <p>操華子：臨床看護研究の道しるべ、日本看護協会出版社、2006</p> <p>黒田祐子：看護研究 第3版、学研、2006</p>	
履修上の注意事項		

科目名：看護研究Ⅱ	配当年次 3年	開講時期 3年前期
単位・時間：1単位（30時間）	授業の方法：演習	
担当者：吉野 里子他	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>看護研究の基礎Ⅰで看護研究に関する基礎知識を学習した。そのうえで実際に研究に取り組み研究のプロセスを通じて研究の進め方の理解を深める。この学習を通しさらに今後の実践を発展させていく力を養うことを目指す。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の過程とその進め方がわかる。</li> <li>2. テーマを見出し、論文としてまとめる。</li> <li>3. 看護研究を学内で発表する。</li> <li>4. 研究の一連の過程を体験することにより、研究的態度の必要性がわかる。</li> </ol>	
授業の計画	<p><b>【講義計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の実際について 研究計画書の作成の意義と作成方法</li> <li>2. 3. 4. 課題に関する文献検索と検討</li> <li>5. 6. 7. 研究計画書の作成と研究計画書に沿って、研究を実施する。 データ収集と分析</li> <li>8. } 9. } 10. } 論文にまとめる 看護研究発表の仕方 発表原稿の作成 11. }</li> <li>12.</li> <li>13. 14. 発表（事前の準備、発表会運営と運営に求められる能力含む）</li> <li>15. 看護研究発表の振り返りと修正方法</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	別紙論文評価項目を提示する。また、作成過程の取り組みについても加味し総合的に評価する。	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統的看護学講座 看護研究 医学書院 eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>高橋百合子：看護学生のためのケース・スタディ 第4版、メヂカルフレンド社、2015</p> <p>木村宏子：わかりやすい看護研究の進め方 看護学生版 シリーズ7、照林社、2003</p> <p>操華子：臨床看護研究の道しるべ、日本看護協会出版社、2006</p> <p>黒田祐子：看護研究 第3版、学研、2006</p>	
履修上の注意事項	3年次前期臨地実習の看護実践をケースとして取り扱う。その為臨地実習内容の充実と記録にとどめるという姿勢を持って臨んでほしい。	